

現代日本論講読 / 比較現代日本論講読 I 「現代日本論論文講読」

第2講 論文をさがす

田中重人 (東北大学文学部准教授)

参考: 日本語教育学研究室「学生のための研究の手引き」 <<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/>> (ふりい情報も含んでいるので注意)

1 今週の課題

(1) 文献データベースで、現代日本文化に関する日本語論文で自分の興味にあうものを2本さがし、コピーを次回提出。

- Peer review 制の雑誌の原著投稿論文に限定する (その雑誌の投稿規程などをみればたいていわかる)
- これらの2本の論文は、別々の雑誌からえらぶ
- 少なくとも1本は冊子体の雑誌からコピーする (もう1本は電子媒体でも冊子体でも可)
- 表紙など、書誌情報がわかる部分もコピーする
- 取り寄せに時間がかかる場合は、後日の提出でよい

(2) 上記の2本の論文について、その論文を入手するまでのプロセスをA4用紙1枚にまとめる

- 日本語教育学研究室の様式に則って書誌情報を書く
- 検索につかったデータベースと検索式
- その論文をえらんだ基準
- 雑誌所在をどのように探して入手したか
- 入手するまでに苦労した点

2 書誌情報

2.1 書誌情報とは

文献を特定するのに必要な情報を「書誌情報」(bibliographical information) という:

雑誌の場合、著者名 / 出版年 / 論文表題 / 雑誌名 / 巻, 号 / 掲載ページ

雑誌発行元は通常は不要 (雑誌名だけで特定できる場合) CiNii Books (後述) などでたしかめる

2.2 雑誌論文の書誌情報の書きかた

日本語教育学研究室の様式 <<http://tsigeto.info/2014/writing/w140627.html>> では

著者 (出版年) 「論文表題」『雑誌名』巻(号), pp. 掲載ページ .

のように書く。たとえばつぎのようになる

渡辺雅子 (2001) 「説明スタイルの日米比較: 初等教育に見る異文化の意味」『社会学評論』52(2), pp. 333-347 .

もし雑誌を区別するために発行元の情報が必要なら、巻号とページの間に入れる

朴承圓 (2002) 「不満表明場面における一人称「私」の使用をめぐる」『文化』65(3/4), 東北大学文学会, pp. 323-342 .

雑誌に関する重要な情報は、たいてい表紙にある(まれに表紙裏にあることも)
複数の号数やページ付けが共存していることがある。その場合、つぎの基準で選択する：

- 巻号方式と通号方式が両方ある場合(例：40巻3号 = 163号)は、巻号方式
- 巻ごとのページと号ごとのページが両方ある場合は、巻ごとのページ

3 とりあえず実習

論文を同定 当該雑誌の所在をしらべる その雑誌(のその号)を入手する
教科書(人文社会科学編 1.2節)参照

3.1 CiNii で論文を同定する

国立情報学研究所「論文情報ナビゲータ」(CiNii: <http://ci.nii.ac.jp>)のサイトで、つぎの論文を同定する。その書誌情報を、日本語教育学研究室の様式にしたがって清書する。

野江啓一「理性の外部としての異界」

3.2 雑誌の所在を探す

この論文を掲載している雑誌(の当該の号)がどこにあるかを東北大学附属図書館サイトで検索する(<http://www.library.tohoku.ac.jp>)。

4 CiNii の使いかた

4.1 CiNii とは

NII 論文情報ナビゲータ (Citation Information by National Institute for Informatics) <http://ci.nii.ac.jp>

国立情報学研究所(NII)による論文検索用統合サービス。種々のデータベースの複合体である(<http://ci.nii.ac.jp/info/ja/cinii-db.html>)。教科書(人文社会科学編 p. 32)

検索は無料で、だれでも利用できる。抄録や本文などにアクセスできる論文もある(抄録・本文の閲覧は有料の場合と無料の場合がある)。

「ヘルプ」から、以下のことを調べてみよう：

- CiNii の成り立ちとデータの集めかた
- 「フリーワード」と「詳細検索」のちがい
- AND/OR 検索の方法
- 空白を含む文字列を指定する方法
- 長音符(ー)のあつかい

検索結果は、通常は

- 論文名
- 著者名
- 雑誌名 巻号, ページ, 出版年

の順に表示される。情報が欠けている場合もある。抄録などが表示される場合もある

論文名のところはリンク情報になっており、クリックすると詳細が表示される。

全文ファイルがある場合は、全文ファイル(PDFなど)へのリンクが表示される。有料の場合、支払手続きが必要である(クレジットカードも利用できる)。

他のデータベースの情報へのリンクがある場合もある。

そのほか、つぎのようなアイコンから各種のデータベースでその論文/雑誌の情報を探せる：

- OPAC: 東北大学図書館の所蔵情報
- NDL-OPAC: 国立国会図書館の雑誌記事情報
- CiNii PDF: 国立情報学研究所で提供している全文情報
- 機関リポジトリ: 各大学等のリポジトリの全文情報
- J-STAGE: 科学技術振興機構が発行している電子ジャーナルへのリンク
- CrossRef / DOI: 様々な出版社が発行している電子ジャーナルへのリンク

左端の にチェックを入れた論文の情報をダウンロードすることができる。右欄の「書き出し」から「TSV形式」の情報を保存して、表計算ソフトに取り込むのがいちばん簡便。「Refer/BibIX形式」などの情報は文献管理専用ソフト用。

4.2 CiNii のデータ源

国立国会図書館「雑誌記事索引」(NDL)

日本国内で出版された出版物は、国立国会図書館におさめなければならないことになっている。この制度にしたがって納本された雑誌の論文・記事について、著者名・論文名・キーワード・年次などから検索できる。くわしくは http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html 参照。 <http://opac.ndl.go.jp> から「雑誌記事索引の検索/申込み」をたどると、単独で利用できる。

- 1万近い雑誌から記事を採録
- 出版からだいたい2月以内で収録される
- 時々収録されていない論文がある(例:『日本語学』の1995年以前)
- 一般の雑誌を多数収録しているので、非学術的な内容の記事が引っかけることが多い
- 入力精度はきわめて高い

研究紀要目次速報データベース/電子図書館サービス(NII-ELS)

学会や大学・研究機関が出版する学術雑誌について、各機関で入力したデータベース。最低限の書誌データしか入っていないものから、全文のPDFファイルが読めるものまである。英語の情報ももっていることが多い。各学会等で入力しているので、品質のばらつきが大きい(入力ミスが多いものもある)。2016年度末で事業が終了したので、今後データが増えることはないはず。

引用文献索引データベース(CJP)

自然科学分野の学術論文について、文献表に記載されたデータを入力したデータベース。入力精度はきわめて低い。

その他

文献情報を公開している各種データベースから情報を取得している。ほかのデータベースと重複していることが多い。全文PDFなどが読めることも多い。

5 雑誌所在をさがす

5.1 冊子体の所在

CiNiiの検索結果に「OPAC」というアイコンが付いている場合、それをクリックすると東北大学附属図書館の所蔵検索ができる(東北大学内からのアクセスの場合のみ)。

東北大学附属図書館のサイト(<http://www.library.tohoku.ac.jp>)で直接検索することもできる。ISSNなどをひかえておいて、それでひくとよい。雑誌名で検索するときは、詳細検索で検索対象を「雑誌」に限定したり、フィールドを「書名(完全形)」に限定したりすると、ヒット数を減らせる。

「学外」にチェックを入れておくと、東北大学図書館内にはない場合には、学外まで所蔵を検索してくれる(Webcatによる)。くわしくは、教科書(基本編3章)を参照。

5.2 電子ジャーナルの利用

附属図書館 OPAC で見つからない場合 (冊子体が学内にない場合) でも、電子化バージョンにアクセスできるケースがある。<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/ejournal/> から探してみるとよい (学内限定)。

電子ジャーナルはふつうの冊子体とは利用マナーが違うので、注意事項をよく読んでから使うこと。特に、雑誌全体をブラウザすることは認められていないので、注意。

くわしくは、教科書 (基本編 4.4 節) を参照。

5.3 学外の所在をさがす

附属図書館 OPAC で検索するとき「学外」にチェックしておく。または、CiNii Books 検索：<http://ci.nii.ac.jp/books> (by 国立情報学研究所)。いずれの場合も、NACSIS ID を控えておく (AN10091189 のようなやつ)

[例題] つぎの雑誌の所蔵を調べてみよう：『論叢クエア』2

5.4 機関レポジトリ等のオンライン情報について

大学等の研究機関での研究成果を集めてインターネット上で公開する「機関レポジトリ」が整備されつつある。教科書基本編 p.139 を参照。また、研究者個人や学会のサイトで論文のファイルが公開されていることも多い。

これらのファイルを検索するには、現在のところ、Google Scholar <<http://scholar.google.com>> がいちばん便利である。機関レポジトリなどの収録ファイルを見るときは、雑誌に掲載された論文と同一のものであるかに注意すること。(しばしば、投稿前の原稿や、出版後に加筆したものを収録していることがある)

6 論文の入手

電子化バージョンにアクセスできれば、そのまま印刷するのが簡便

- 東北大学図書館本館にある 借り出し (たいてい2号館にある)
- 東北大学内の研究室など きいてみる (貸してもらえないこともある)
- 他の大学図書館など 複写または貸借 (レファレンス・デスクで申し込む：有料)。

東北大学図書館では オンラインでの複写・貸借申し込みサービス も行っているのので、それを利用してよい。教科書付録7「相互利用サービス」および基本編 pp. 11-12 の MyLibrary の説明を参照。

7 論文種別の確認

- Peer Review 制の雑誌か その雑誌の投稿規程などを見る
- 研究ノート、調査報告など 通常、論文タイトルところに併記されている
- 投稿論文 / 依頼論文 「特集」の論文は、通常は依頼論文。論文タイトルところに「投稿論文」と書いてあったり、編集後記などに言及があったりする。雑誌によってはほとんどが依頼論文という編集方針のものもあるので、投稿規程があるかどうかを確認する。